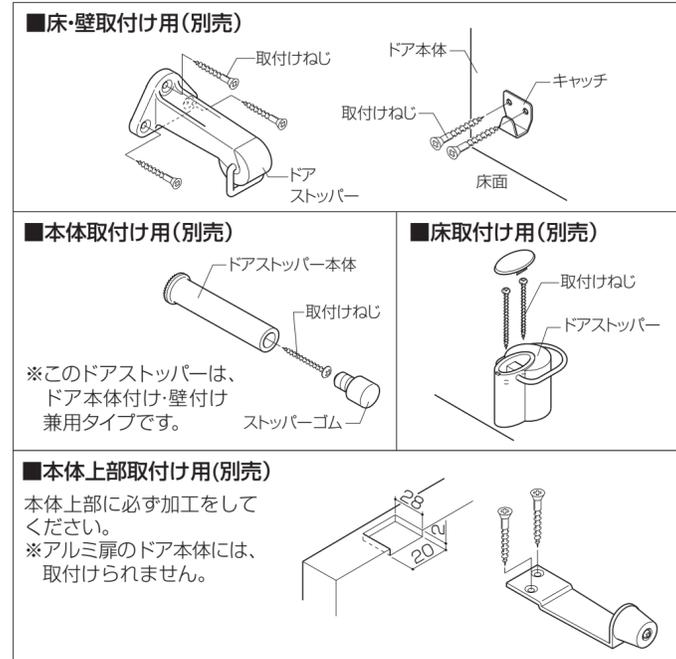


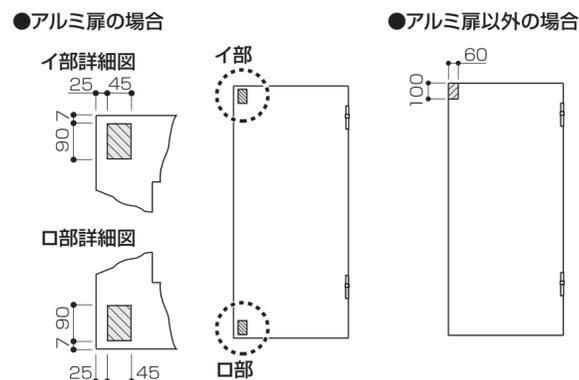


TOSTEM リビング建材 ウッディーライン ランマ付ドア 取付け説明書

9 オプションドアストッパーの取付け



■本体取付け用ドアストッパーおよび、キャッチの取付け範囲
※下図の斜線範囲内にドアストッパー本体、又はキャッチを取付けてください。
※壁取付け、床取付けドアストッパーは、キャッチの位置に合わせ、壁又は床に取付けてください。
※ドアストッパー取付け時には、φ 1.5の下穴をあけて手回して固定してください。電動ドライバーなどの電動工具で締付けたと空回りすることがあります。

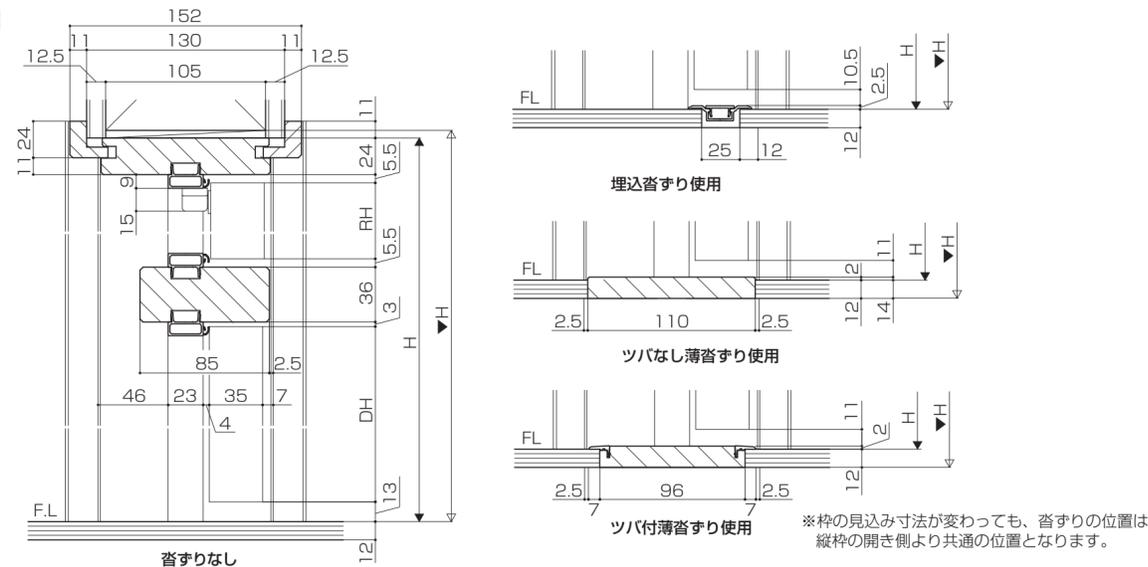


※規格品ドア本体(アルミ扉以外)には、工場出荷段階より内蔵ドアストッパーが取付けられています。
内蔵ドアストッパーが取付いている箇所には、オプションドアストッパーの後付けはできません。

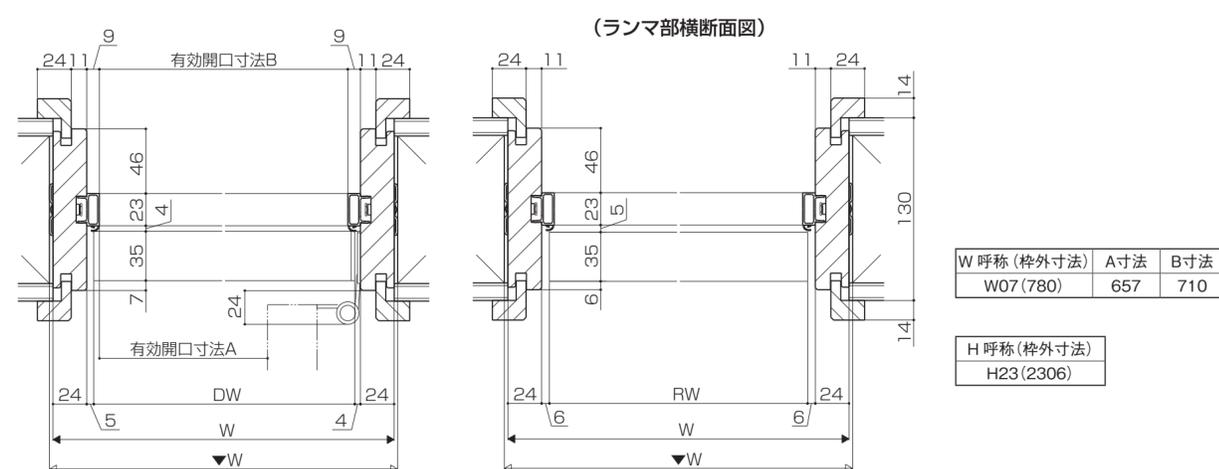
■納まり図

■ランマ付ドアユニット ケーシング付

●縦断面図



●横断面図



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲警告 …取付けを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲警告

●下記のような医用電子機器を使用されている方は、操作を行わないでください。
各医用電子機器に誤作動をまねくおそれがあります。
(1) ペースメーカー等の体内埋込型機器 (2) 人工心肺等の生命維持用機器 (3) 装着型の心電計等

▲注意

- 本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず押下げてください。軸が下がっていないと、本体脱落の原因となります。
- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。
- フラップが立ち上がったままになっている場合は、必ず手で倒してください。思わぬケガをするおそれがあります。
- 扉を開放しておくときは、必ずロックレバーを下げて扉を固定してください。扉が強風で強く閉まり思わぬケガをするおそれがあります。

■取付け上へのお願い

- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
 - 造作材の取付け・建具のかい木には、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
 - 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
 - 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
 - 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂れ下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
 - 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
 - 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けてください。
 - 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
 - 丁番は指定のねじで締付け、ガタツキのないように固定してください。調整後ガタツキがないことを確認してください。
 - 建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には、すき間をつくって納めてください。
 - 縦枠と柱・間柱とのすき間は、枠固定金具を調整して柱にあてて内装ボードを必ず縦枠に突きあててください。突きあてができない場合はかい木を入れてください。
 - 上枠とまぐさのすき間は必ずかい木を入れてください。
 - かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
 - 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
 - ドアストッパーを壁に取付ける場合は、補強材が入っていることを確認してください。
- ※建築工事中は、ドア本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

ドア本体	3方枠	4方枠	ケーシングセット (ケーシングタイプのみ)
<p>●ドア本体</p> <p>■アルミ扉以外の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ●内蔵型ドアストッパー床付け部品セット (アルミ扉以外にのみ同梱。) <p>■アルミ扉の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ●部品セット (アルミ扉のみ同梱。上丁番加工部に張付けてあります。) 	<ul style="list-style-type: none"> ●無目枠 ●上枠 ●ストライク側縦枠 ●丁番側縦枠 ●ランマ部上枠戸当たり ●マグネットキャッチ ●縦枠用戸当たり(2本) ●ランマ部縦枠用戸当たり(2本) ●無目枠用戸当たり(2本) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ストライク側縦枠 ●ツバなし薄沓すり ●無目枠 ●上枠 ●ランマ部上枠戸当たり ●マグネットキャッチ ●縦枠用戸当たり(2本) ●ランマ部縦枠用戸当たり(2本) ●無目枠用戸当たり(2本) 	<p>ケーシングタイプ</p>
<p>ランマ本体</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ランマ本体 ●ねじセット 	<ul style="list-style-type: none"> ●部品セット ●取付け説明書 ●枠定規 (施工工具用) 	<ul style="list-style-type: none"> ●部品セット (2個) ●取付け説明書 	
<p>ハンドルセット</p>	<p>錠セット</p>	<p>ツバ付薄沓すりセット</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ツバ付薄沓すり ●ツバ材(2本) 	<p>埋込沓すりセット</p> <ul style="list-style-type: none"> ●埋込沓すり ●溝フタ

■枠セット明細

ランマ付 ドア	縦枠	上枠	無目枠	(※1)枠定規	(※2)ツバなし薄沓すり
	2	1	1	1	1
	下部用戸当たり		上部用戸当たり		
	縦2・上1		縦2・上1・下1		

※ 1)3方枠の場合、4方枠には含まれません。
 ※ 2)4方枠の場合、3方枠には含まれません。

■ケーシングセット明細

上用ケーシング	2
縦用ケーシング	4

■本体丁番ねじセット明細
(枠に同梱、丁番にテープ止め)

本体取付けねじ (皿タッピンねじφ4×20)	8本
---------------------------	----

※アルミ扉の場合は、ドア本体に同梱の専用
 丁番ねじセット(皿小ねじ M4×25)を使用
 してください。

■ハンドルセット明細

ハンドルセット	1組
台座セット	1組
ハンドル固定ねじ	1本

■錠セット明細

錠座セット	1組
-------	----

■内蔵型ドアストッパー床付け
 部品セット明細

床付け部品	1個
床付けカバー	1個
床付け治具	1個
床付け部品取付けねじ (皿タッピンねじφ3×12)	2本

■部品セット(枠用)

	3方枠	4方枠
組立て用皿小ねじ M4×50	8本	12本
上枠取付け用DNビス (皿木ねじ)φ3.8×50	※7本	※7本
縦枠取付け用 ナベタッピンねじφ4×40	6本	6本

※予備用4本含む

■取付け範囲(単位:mm)

対象壁厚	ケーシングタイプ		ノンケーシングタイプ		
	薄壁用	厚壁用	NC156	NC171	NC180
111~141	142~182	116~130	131~145	146~160	

■部品セット明細(ツバ付薄沓すり用)

組立て用トラスタッピン ねじφ4×25	4本
------------------------	----

■部品セット明細(埋込沓すり用)

取付け用ナベタッピンねじ φ4×40	4本
-----------------------	----

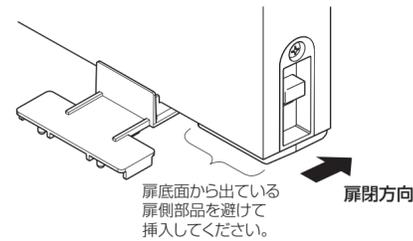
■部品セット明細(ランマ本体用)

皿タッピンねじφ3.5×20	4本
----------------	----

【取付け方法】

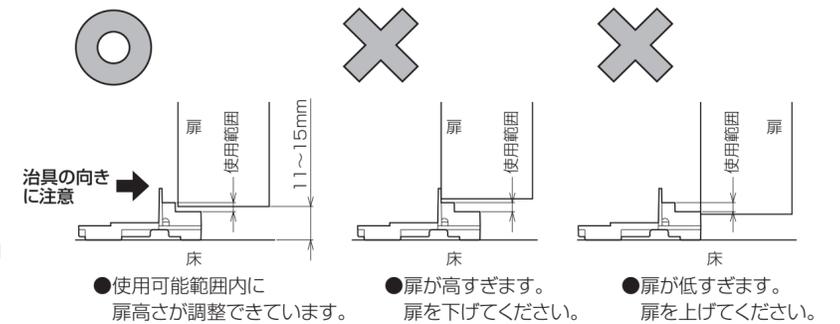
①取付治具で扉と床の距離を確認する

①扉を停止させたいところまで扉を開き、扉底面から出ている扉側部品を避けて取付治具をゆっくり押し当てて、扉と床の距離を確認します。



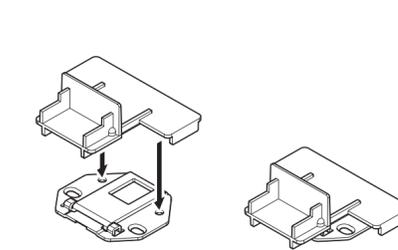
※本体は左吊元を示しています。

②扉を使用範囲を越えている場合には下記の方法で扉高さの調整を行ってください。



②取付治具と受け部品を組み合わせる

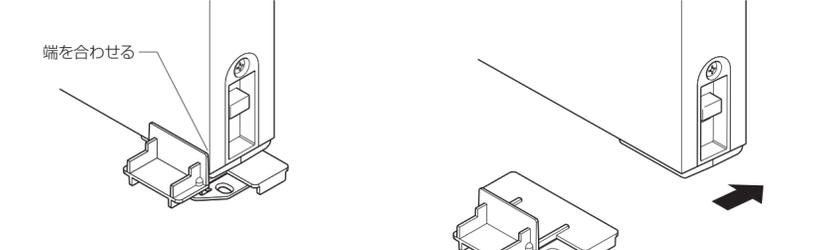
①ベースの2個所の穴に取付治具裏面の凸部をはめ込んでください。



③組み合わせた受部品を取付位置にセットする

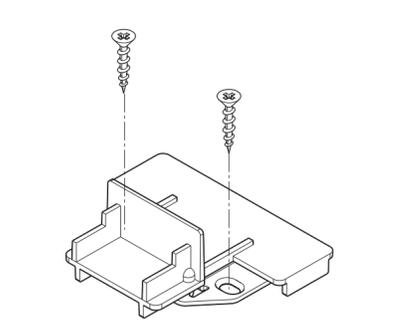
①扉を停止させたい位置で取付治具の端を扉の端に合わせてください。

②取付治具、受け部品を動かさないように手で固定し、扉を移動させてください。



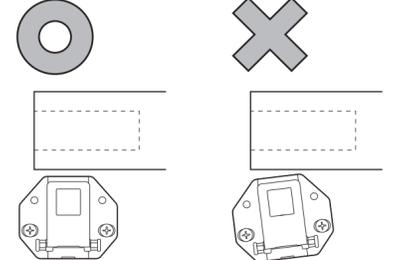
④受け部品を固定する

①受け部品の取付位置に下穴をあけ、付属のネジで固定してください。



⑤取付状態および作動の確認をする

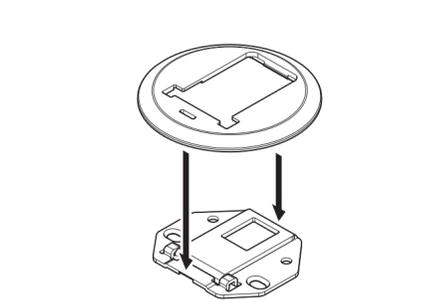
①正しく取付けられていることを確認してください。



②ロックレバーが上がっている状態で本体が受け部品の真上にくるように扉を開き、正常に作動するか確認してください。
 ③ロックレバーを下げてロックができることを確認してください。

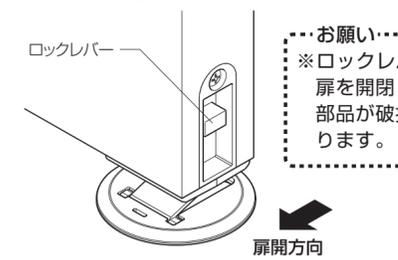
⑥ベースカバーをはめ込む

①必ず⑤の確認後、ベースカバーを取付けてください。
 ②受け部品にカチッと音がするまでベースカバーをはめ込んでください。



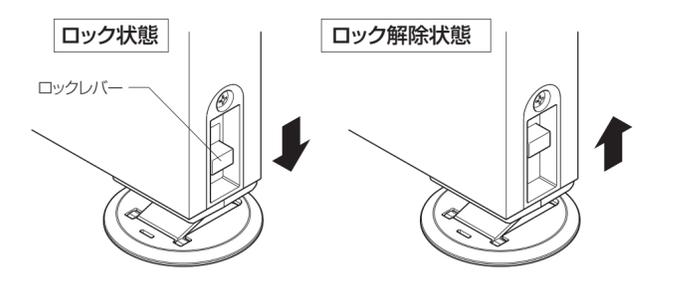
【取扱い方法】

●扉本体が受け部品に近づくともフラップが立ち上がり、ストッパーが作動します。



※扉本体の開く速度が速すぎると作動しなかったり、部品が破損するおそれがあります。

●ロックレバーを下げてロック状態にすると扉を開いた状態を維持します。

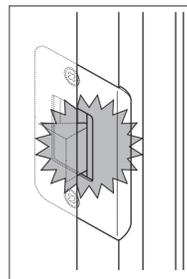
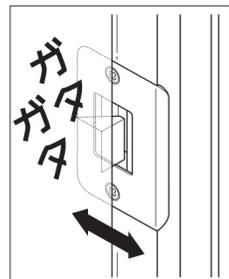


※ロックの際はフラップが本体の奥まで完全に入っていることを確認してください。
 ※ロック解除の際は、ロックレバーを完全に上げてください。
 ※ロックレバーを下げてそのまま扉を開かないでください。部品が破損するおそれがあります。

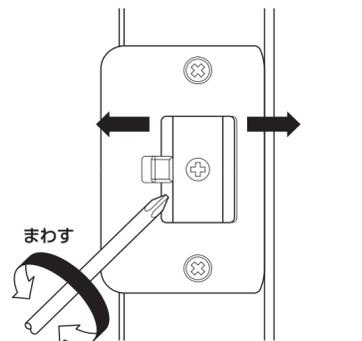
■建付け調整 (ストライクによる調整)

●ラッチがストライクの中でガタついたり、ラッチがかかりにくい場合はプラスドライバーでストライクの調整ねじを回して調整してください。

■ラッチがストライクの中でガタつく ■ラッチがかからない



ストライク調整ねじ
可能調整範囲±3mm

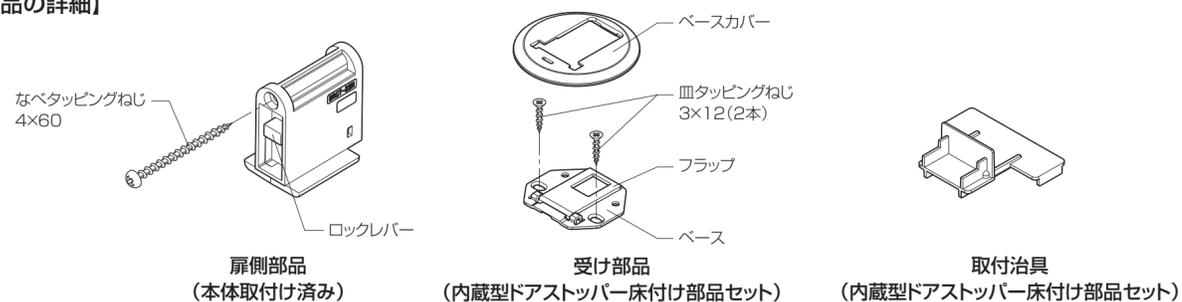


8内蔵型ドアストッパー床付け部品の取付け

---施工上・取扱上のお願---

- 取付けは木質床材専用です。じゅうたん・クッションフロア等の軟質床材へは取付けできません。
- 取付け前に扉の建付け調整を必ず行ってください。
- 取付け具を使用して扉と床のすき間の確認を行い、扉と床のすき間が11～15mmとなるように扉高さを調整してください。扉と床のすき間を11mm以下もしくは15mm以上にするとストッパーが作動せず、扉が壁などに衝突するおそれがあります。
- 床暖房システムを使用している部分では使用しないでください。
- 本製品のねじ締付時には手動ドライバーもしくはクラッチ付のドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじの空回り、ねじ頭部の破損、つぶれの原因となります。
- ロックが掛かった状態で扉本体にもたれかかったり、引っ張ったりしないでください。ストッパーが破損するおそれがあります。
- 磁気商品(テープ、カード、時計、精密機器等)を本体に近づけないでください。使用できなくなるおそれがあります。
- 受け部品(床付け部品)にワックスをかけないでください。作動不良の原因となります。万一ワックスをかけた場合は、ワックスをきれいに拭き取ってください。
- 受け部品(床付け部品)にホコリ・砂がかかった場合は、掃除機などで取り除いてください。作動不良の原因となります。
- フラップに磁気を帯びさせないでください。作動不良の原因となります。
- 扉側部品にお湯をこぼしたり、暖房機器による熱風などを与えたりしないでください。故障の原因となります。

【部品の詳細】

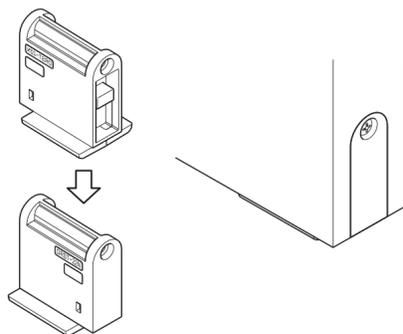
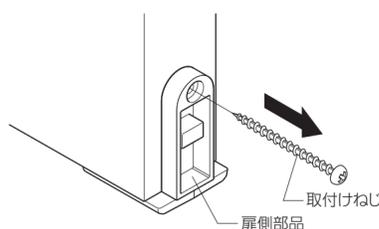


【ドアストッパー機能を使用しない場合】

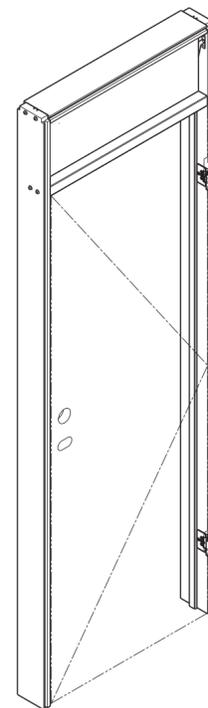
※下記対応で、ストッパー機能をなくすことが可能です。

①取付けねじをゆるめ、扉本体から扉側部品を外してください。

②扉側部品をひっくり返し(木口面からロックレバーが見えない状態)、再び取付けてください。



■構成図

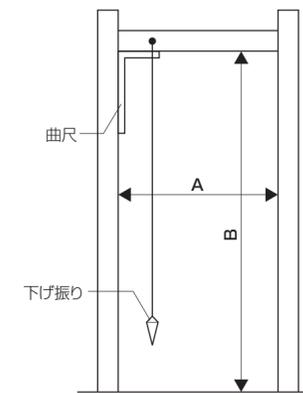


■開口部の作り方

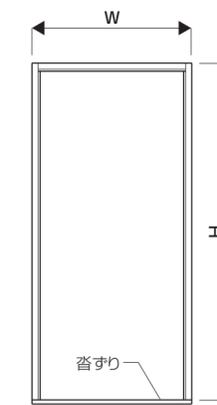
※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

開口寸法A	製品寸法 W + 5mm
開口寸法B	製品寸法 H + 床厚 + 5mm

●間口寸法



●製品寸法

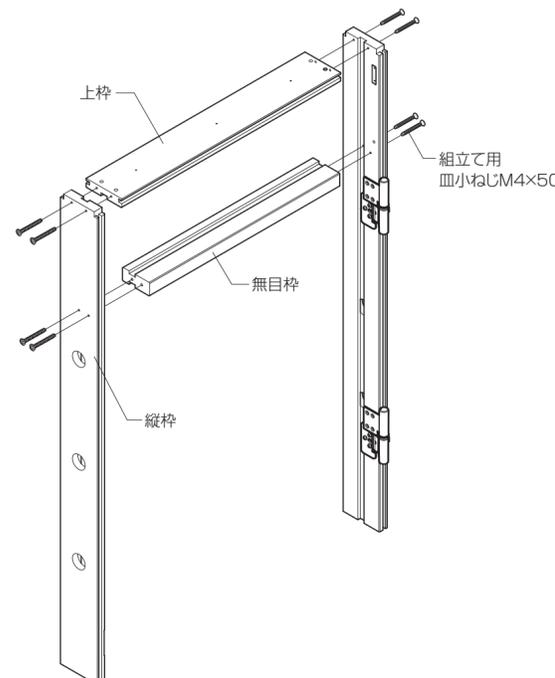


■取付け順序

1 枠の組立て

【3方枠の場合】

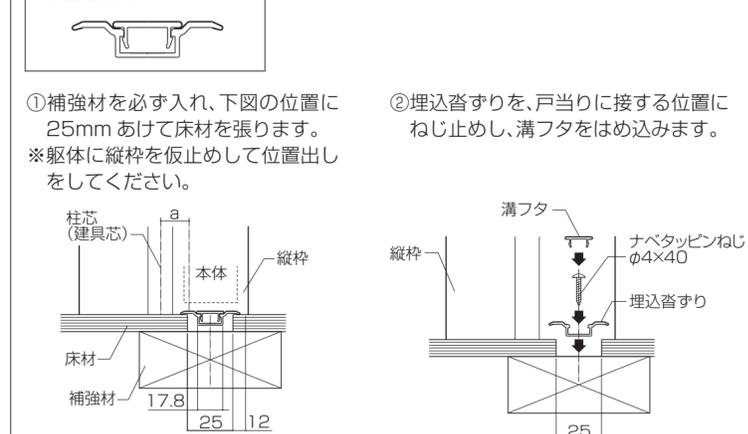
●下図のように各部材を組合せ、同梱のねじで固定します。



お願い
※組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。

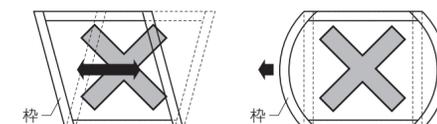
【3方枠に埋込沓すりを使用する場合】

●埋込沓すり



枠機種	NC156	NC171	NC180	C付115(薄壁)	C付142(厚壁)
a寸法	41	48.5	53	20.5	34

お願い
※枠組立て後、揺らす・引張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因となります。
※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。



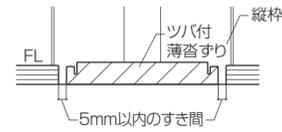
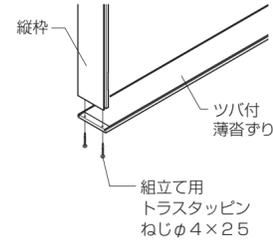
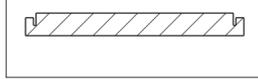
【3方枠にツバ付薄沓すりを使用する場合】

※縦枠と上枠と無目枠の組立ては、3方枠の場合の記載を確認してください。

①下図のように各部材を組み合わせ、同梱のねじで固定します。

②枠の取付け後、下図のように床材を張ってください。

●ツバ付薄沓すり



※床材とツバ付薄沓すりのすき間は5mm以内にご確認ください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。

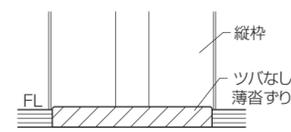
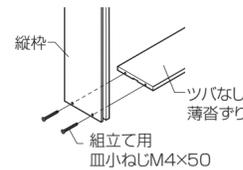
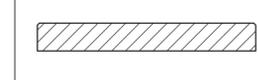
【4方枠の場合(床後張り(枠先付け)の場合)】

※縦枠と上枠と無目枠の組立ては、3方枠の場合の記載を確認してください。

①下図のように各部材を組み合わせ、同梱のねじで固定します。

②枠の取付け後、下図のように縦枠・ツバなし薄沓すりにそって床材を張ってください。

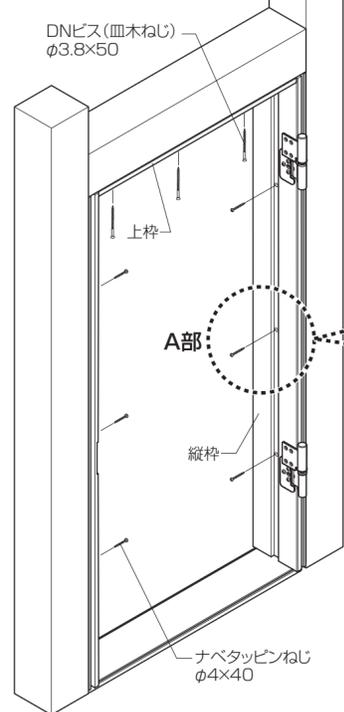
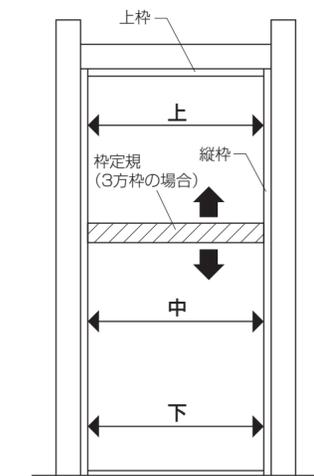
●ツバなし薄沓すり



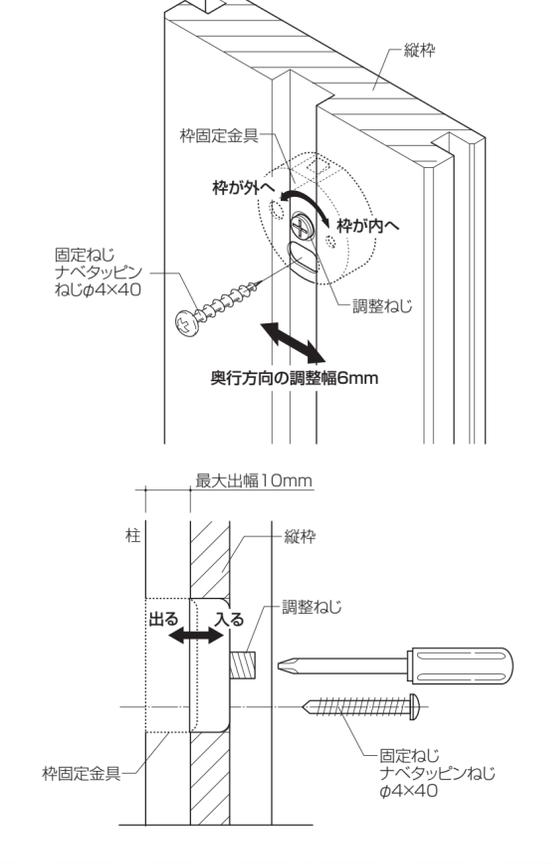
■枠の取付け

- 縦枠に取付けられている枠固定金具(縦枠に3個取付け)の調整ねじを時計回りに回し、金具を均等に出してください。
- 枠の垂直を確認してください。
- 固定ねじ(ナベタッピンねじφ4×40)を枠固定金具の長穴中央部分より締付けてください。
- 枠の奥行方向の倒れを確認してください。倒れている場合は、固定ねじをゆるめ、枠を動かします。(奥行方向の調整幅は6mmです。)調整後、ねじを固定してください。
- 開口寸法(W方向)が上・中・下の個所で揃っていることを確認してください。(3方枠の場合は、枠定規を当てて確認してください。)開口寸法が大きい場合は、調整ねじを時計回りに回し、小さい場合は、反時計回りに回して枠を調整してください。(左右方向の調整範囲は片側で10mmです。)

- 再度、枠の垂直を確認してください。
- 上枠はかい木を入れてDNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。
- ※縦枠の固定箇所を増やしたい場合は、予備の上枠取付け用ねじ(DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50)で固定してください。



■A部詳細図



※枠固定金具の調整には、電動ドライバーを使用しないでください。
※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて施工してください。突きあてができない場合は、必ずかい木を入れてください。

■建付け調整(丁番による調整)

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。
※電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



上下の調整	不具合例	調整方法
●本体側下丁番で調整します。 ●調整幅は、上(3mm)、下(3mm)です。	1.ドアの上部が枠に当たる。	①本体側下丁番のキャップを外す。 ②上下調整ねじを左に回してドアを下げて位置を決める。 ③キャップをはめる。

不具合例	調整方法
2.ドアの下部が枠に当たる。	①本体側下丁番のキャップを外す。 ②上下調整ねじを右に回してドアを上げて位置を決める。 ③キャップをはめる。

左右の調整	不具合例	調整方法
●枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。 ●調整幅は、吊元側に1.5mm、開き側に2.5mmです。	1.ドアの開き側が枠に当たる。	①固定ねじをゆるめる。 ②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。 ③固定ねじを締める。

不具合例	調整方法
2.ドアの開き側のすき間が大きすぎる。	①固定ねじをゆるめる。 ②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。 ③固定ねじを締める。

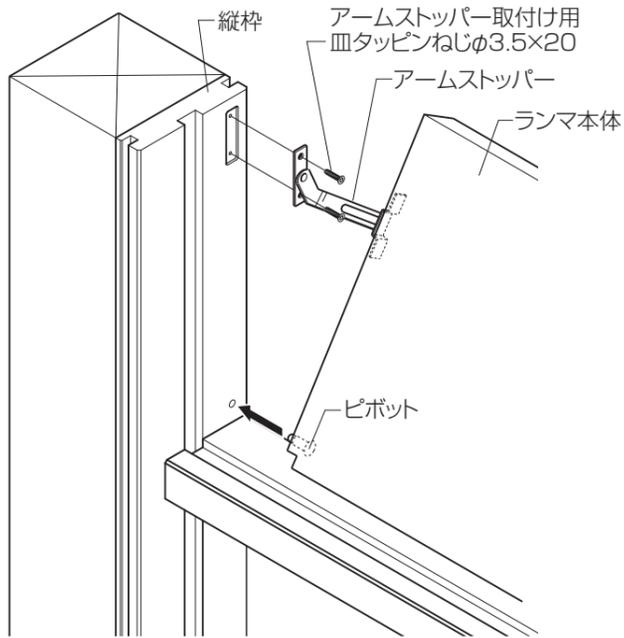
前後の調整	不具合例	調整方法
●枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。 ●調整幅は、前(2mm)、後(2mm)です。	1.開き側の枠が前に出ている。	①固定ねじをゆるめる。 ②前後調整ねじを左に回してドアを前に移動させる。 ③固定ねじを締める。

不具合例	調整方法
2.吊元側の枠が前に出ている。	①固定ねじをゆるめる。 ②前後調整ねじを右に回してドアを後に移動させる。 ③固定ねじを締める。

不具合例	調整方法
2.吊元側の枠が前に出ている。	①固定ねじをゆるめる。 ②前後調整ねじを右に回してドアを後に移動させる。 ③固定ねじを締める。

3 ランマ本体の取付け

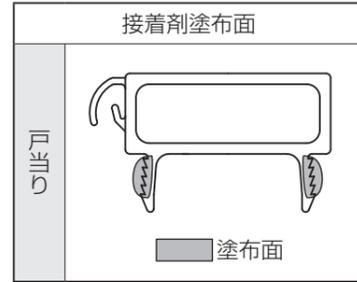
- ①ランマ本体のピボットを押しながら、枠の下穴にはめ込みます。
- ②アームストッパーをランマ本体に同梱のねじで枠に固定します。



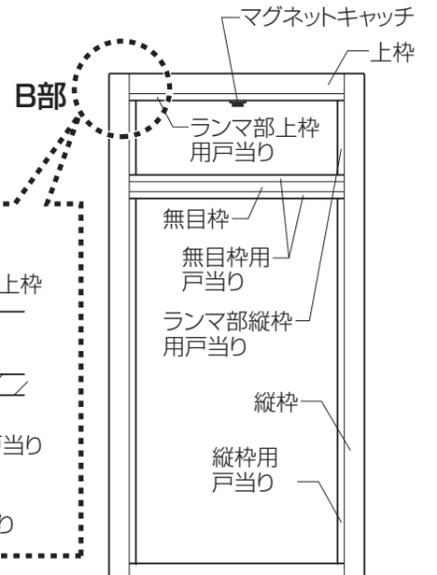
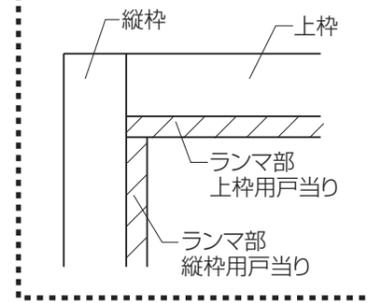
4 戸当りの取付け

- ①現場で戸当りの寸法を合わせて切断してください。
 - ②戸当りの足の外側(リブのある面)に接着剤(現場手配)をつけ、固定してください。(塗布面は下図参照)接着剤(現場手配)がはみ出た場合は必ずふきとってください。
- ※戸当りは、埋込沓すりより先に取付けてください。
※ランマ部上枠、無目枠用→縦枠用の順に取付けてください。

お願い
※ハンマーなどで直接たたき込まないでください。



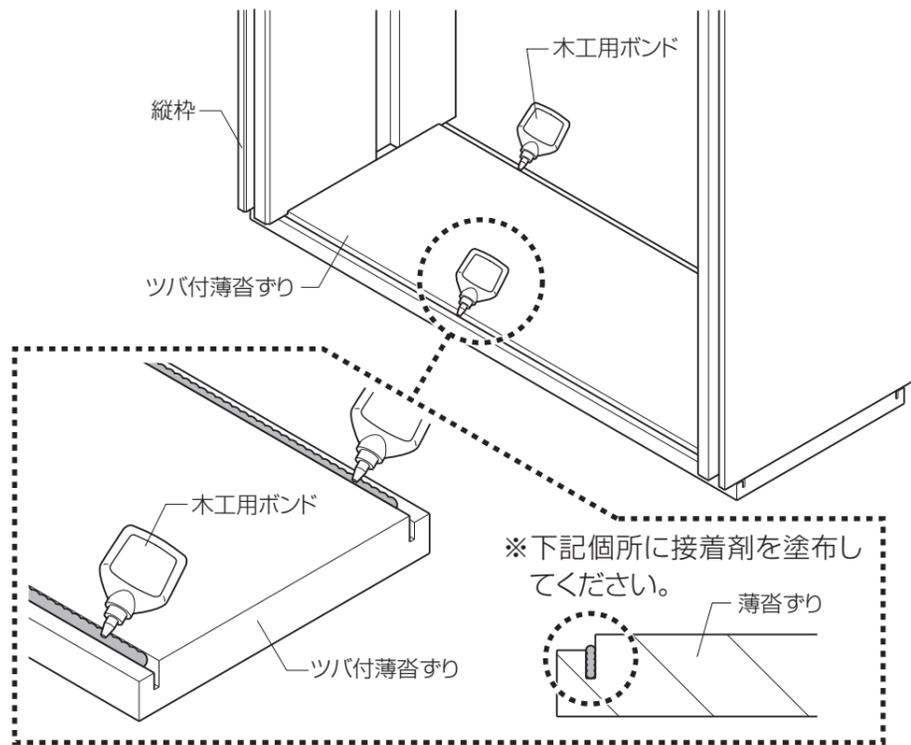
B部詳細図



お願い
※ランマ部上枠用戸当りの取付けは、ランマ本体吊込み後に、取付けてください。ランマ本体吊込み前に行くと、作業がやりにくくなります。

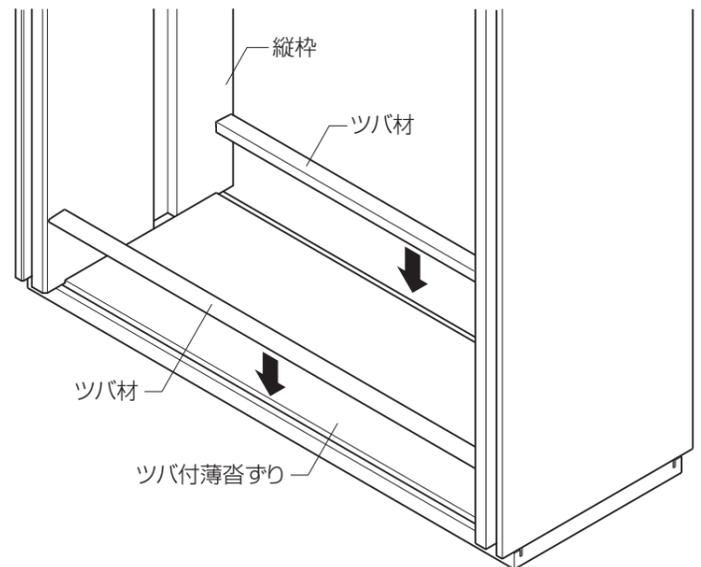
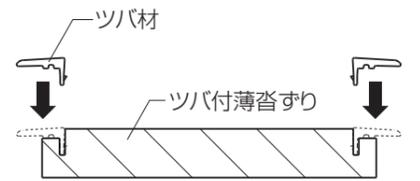
5 ツバ材の取付け (ツバ付薄沓すりを使用する場合のみ)

- ①現場でツバ材の寸法を開口に合わせて切断してください。
- ②ツバ付薄沓すりの溝に木工用ボンド(現場手配)を溝全長にすき間なく塗布してください。



- ③ツバ材を溝に手ではめこんでください。

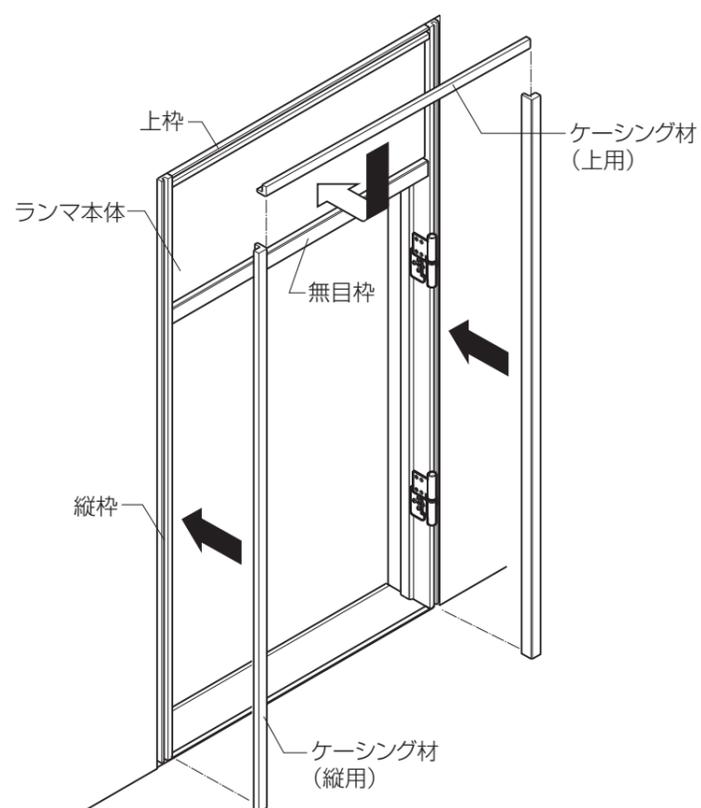
お願い
※ハンマーなどで強くたたき込まないでください。



6 ケーシング材の取付け(ケーシングタイプのみ)

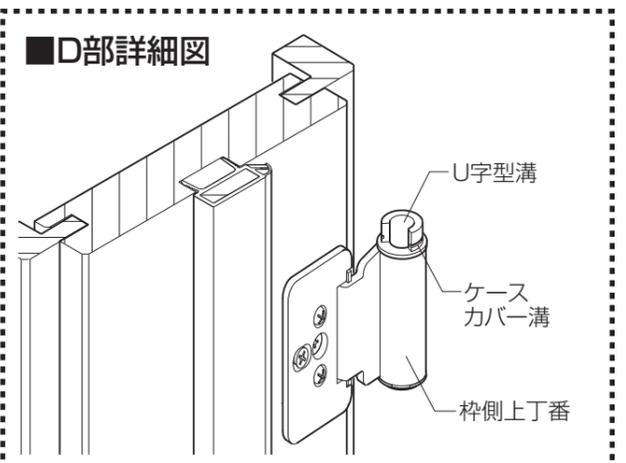
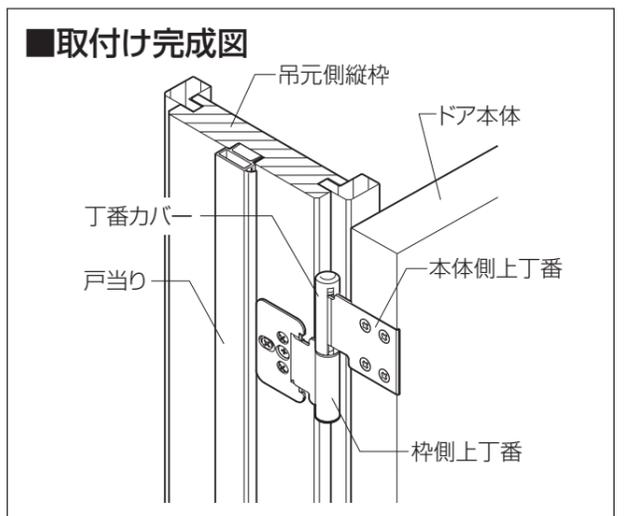
※壁材・床材を仕上げしてからケーシング材を取付けてください。

- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
 - ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
 - ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシング材を固定します。
- ※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。



7 ドア本体の取付け

- ① ドア本体に、本体側丁番を皿タッピンねじφ4×20(枠側丁番にテープ止め)で取付けます。(C・C'部)
※アルミ扉の場合は、本体側丁番を皿小ねじ M4×25(ドア本体側上丁番加工部にテープ止め)で取付けてください。
- ※ ドア本体は左右兼用です。取付けの際は、ドア本体の上下を確認してください。
- ② 下丁番カバーを上げます。
- ③ 上丁番カバーを外してください。
- ④ 本体側上丁番の軸を止まるまで上げます。(C部)
※ 軸は8mm程残した位置で止まります。
- ⑤ 本体側下丁番を枠側下丁番に差込みます。(E部)
※ 本体側下丁番の軸を垂直に差込んでください。
- ⑥ 本体側上丁番の軸を枠側上丁番のU字型溝にはめ込み、ドア本体を吊込みます。
- ⑦ 本体側上丁番軸を止まるまで下げてください。(F図)
- ⑧ 上丁番カバーを取付けます。
※ 枠側上丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。
- ⑨ 下丁番カバーを下げます。
※ 枠側下丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。



お願い

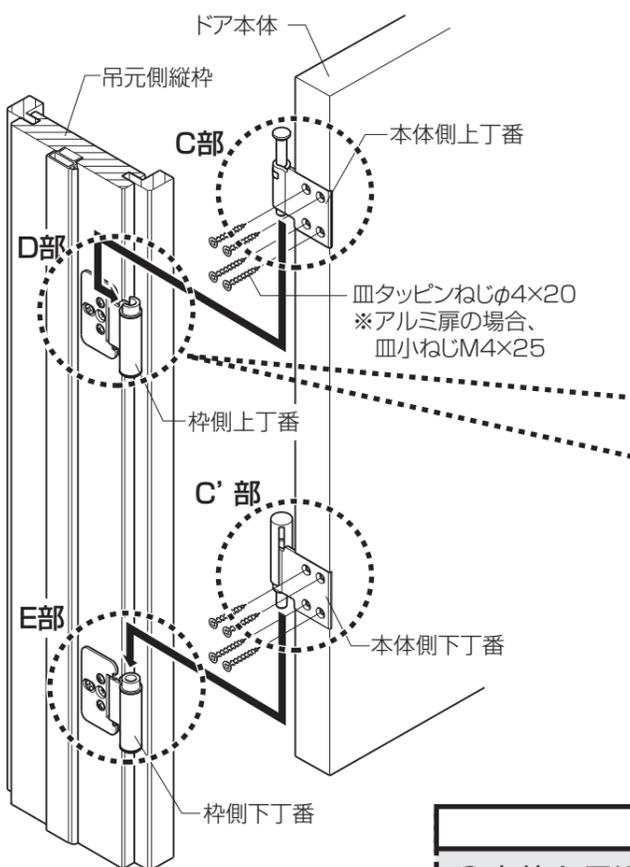
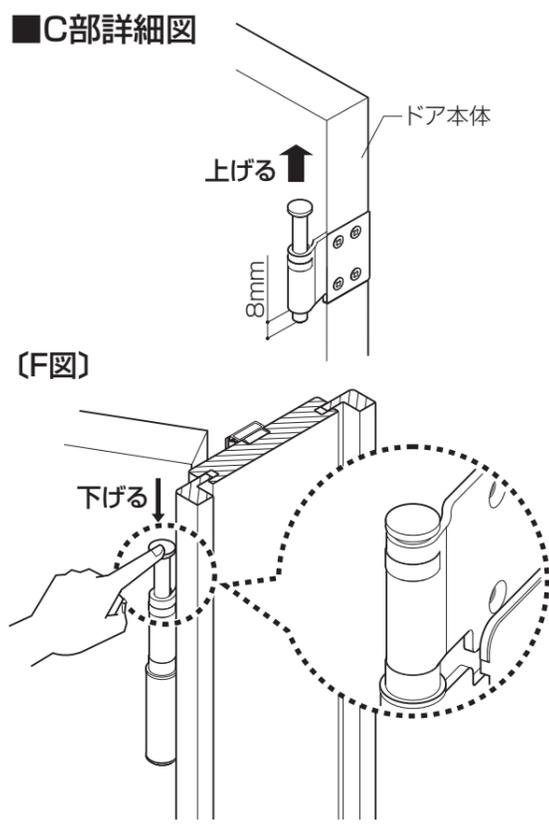
※ 本体を保管する際は、下記の状況にあたる場所には置かないでください。

- ・ 直射日光の当たる場所
- ・ 昼夜などで温度差の激しい場所
- ・ 湿気の多い場所

本体のソリ・ねじれなどの原因になります。

※ 長期にわたる本体の立て置き保管はせずに、寝かせた状態での保管としてください。

本体のソリ・ねじれなどの原因になります。



▲ 注意

- 本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず押下げてください。軸が下がっていないと、本体脱落の原因となります。
- 建付け調整後本体・枠への固定ねじおよび丁番本体の止めねじが必ず締まっていることを確認してください。丁番固定ねじの締忘れ・ゆるみなどは、本体脱落の原因になります。